

長野県革新懇ニュース

2021 年 3 月号
発行日 3 月 10 日
会 費 2,000 円
購読料 3,000 円 (送料込)
振 替 00510-3-15971

262

発 行 日本と信州の明日をひらく県民懇話会
(長野県革新懇) 発行人：山口光昭 編集長：高村裕
〒380-8790 長野市県町 593 高校教育会館内
TEL：026-234-1231 FAX：026-234-2219 メール：mail@nagano-kakushinkon.com

==== 今号の主な記事 =====

- 1 面 三上さんインタビュー
- 2 面 1 面続き、「近現代信州の歴史回廊」杉山洋子さん
- 3 面 「参議補選で必勝を」山口光昭さん
「東信市民連合結成」島田佳幸さん 読者の声、漢字パズル
- 4 面 雨よ降れ 「流行」ギライ 窪島誠一郎さん
写真で辿る信州と戦争「敗戦間際の狂気 (2)」北原高子さん
映画評論『沈黙—サイレンス—』内山到さん

長野県革新懇

検 索



1945 年、浜名湖西岸の湖西市生まれ。浜松北高、慶應義塾大学、西友、船井総研に勤務後、2004 年から湖西市長を 3 期務める。2019 年から立憲民主党公認の湖西市議会議員。ブログや SNS で自由人としての思いを発信。夫人は松本市出身。

原発は危険で高い!!

2050 年国産エネルギー 100% だ!!

三上 元 さん

脱原発をめざす首長会議世話人
原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟幹事

9・11 が脱原発の原点

Q 原発ゼロに向けて積極的に行動されていますが、そのきっかけをお話ください。

原発問題について関心はあり、スリーマイルやチェルノブイリの事故のことは当然承知していましたが、新潟の巻町の原発反対運動も記憶しています。ただ 2001 年の 9 月 11 日までは原発を止めようという発言はしてきませんでした。しかし、あの惨劇とテロの脅威を目の当たりにして、原発を止めようということとを大っぴらに表明するようになりました。

9・11 では 4 機の旅客機がハイジャックされました。そのうち 2 機がツインタワーを襲い、3 機目は米国防総省に突入しました。4 機目はピッツバーグ郊外に墜落しました。その標的は米議会議事堂かホワイトハウスらしいと言われていています。しかし、私はその時に、原発を狙ったに相違ないと思いました。テロリストの立場になって考えたら、原発は格好の標的だからです。同様の危機感をもったのは決して私だけではありません。実際にフランスではその対策を具体化したのです。

大型旅客機がぶつかっても爆発しないようにするためには、格納容器の外側にもう一つ大型の容器を造らなければなりません。それがフランスの原発です。フランスが今造りつつあるフランマンビルの原発というのは着工から 14 年経ってもできていません。それは、格納容器を 2 重にしているの、コストが約 1 兆 4000 億円、今までの 3 倍くらいかかるからです。その結果、新規の建造が採算に合わないことを証明しているのがこの原発です。原発を続ける限りは、事故の可能性は絶対存在するわけですから、新しい原発をつくらうとすると莫大な費用がかかることになったわけです。

我が家は軍人の家系なので、多少国防に関心がありましたが、あの 9・11 のテロを見て、テロリストに狙われる可能性があるならば、日本の国防の第一は原発をなくすることだと考えました。それが原発問題にかかわるスタートです。新幹線は踏切事故がゼロです。何故かといえば踏切がないからです。同じことです。原発事故をなくすには、すべての原発を廃止してしまえばいいのです。

私は当時、経営コンサルタントとして有料のメールマガジンを週刊で発行していました。そこで 5 週間にわたって原発を止めようというキャンペーンを張りしました。それが外に向けた最初の発信です。

大変な衝撃だった 福島原発事故

Q 福島原発事故についてはどのような思いでしょうか？

福島の事故を見て、大変なショックを受けました。私は 2001 年から原発反対ということを発言はしていたんですが、起きてほしくないという気持ちも含めて日本に起きるとは思っていませんでした。ところが、日本で実際に重大な原発事故が起きました。私は、日本は技術立国であり、日本の技術はかなり進んでいると思っていました。ところが、地震と津波にやられました。日本は地震大国、津波大国ですから、それらの対策は当然されていると思っていた。日本の科学者がいい加減なのか、あるいは日本の官僚や経営者がいい加減なのか、どちらにしても、日本の技術の基本が問われる事件であり、技術立国日本に傷がついたと思いました。そして、もし浜岡原発で同様の事故が起これたらどういう事態になるかと考えました。

浜岡原発訴訟の 原告団の一員として

Q 浜岡原発訴訟の原告になられています。その経緯をお聞かせください。

削ってくれといわれたらしいのですが、5 cm で妥協したらいいのです。ひとつの大きな穴を掘って、その中に残土を埋めるのに 2000 万円かかるそうです。10 か所だったら 2 億円です。土を受け入れる地主がいらないので、校庭の片隅に深い穴を掘って埋めているわけです。そして、ブルーシートがかけられ、「危険近寄るな」という立て札が各学級の一角にありました。これが 60 km 圏です。浜岡原発は 50 km 圏の人口が日本一です。200 万人を超える人々がその圏内で生活をしています。事故が起きた時のことを考えると背筋が凍り付きます。浜岡原発の再稼働は断じて認められないどころか、廃炉にしなければいけないという思いを強くもっています。



浜岡原発の 60 km と 120 km 圏内、湖西市は浜名湖の西岸

原発を廃止する運動をする決心はしましたが、浜岡原発廃止の訴訟団に加わるとは思っていませんでした。裁判は弁護士さんにまかせようと思っていた。そうしたら、知り合いでもない浜松の弁護士から電話がかかってきて、訴訟団に加わってほしいので、ぜひ会ってほしいということでした。はじめは固辞しましたが、会うだけ会ってほしいということなので、3 月 11 日の 2 ヶ月後のゴールデンウィークに弁護士さんとお会いしたんです。そうしたら、弁護士さんがこう言うんですね。三上さんが原告団に加わってくると二つの効果がある。一つは十数カ所で訴訟が起きているが、現役の市長が入っているところはどこもない、だから社会的関心も高まるし、宣伝効果も絶大であるということ、もう一つは裁判官に対するインパクトが大きいということ、この二つの効果があるからぜひ入ってほしいということでした。そして、現職市長が加われば、それだけで訴訟の記事